

② 「鏡よ鏡」

2024年10月吉日

白子隆志

皆さんは鏡を見えていますか？女性はもちろん、男性も毎朝鏡を見ますよね。私だけかもしれませんが、歳をとってから鏡に映る自分を見ることがとても嫌いになった気がします。これは、歳相応な「爺さんの自分」が映っているからで、それを見てがっかりする自分を見たくないからだと思います。

「鏡」は本来、映ったままを返す正直なものです。最近はスマホのせいか、簡単にビデオ画面と鏡面像を選択できるようになり、時々鏡に映る自分の右・左がわかりにくくなったのも事実です。ビデオカメラを通してみる自分は左腕が右になっているのに対して、鏡を通すと左腕は左に映っていて「鏡」とは…つくづく本当に不思議なものだと考えてしまいます。また最近では、ビデオの修正や加工によってフェイク画像というのも出てきて何を信じてよいのかわからなくなってきました。

鏡にはそのままの自分が映っていますが、自分の中身(性格・考え)までは映ってきません。自分の性格を本当は外から見ると「どう見えるのか?」「どう感じるのか?」考えたことがありますか？

人間は他人のことに対しては簡単に文句をつけますが、とにかく自分のこととなると甘くなってしまいます。自分の(嫌な)ものを見たくないという心理は誰にでもありますが、社会・特に職場では自分が周囲にどのように映っているのかを気にすること、これは「空気が読める」「仕事ができる」人になるための必要条件ではないかと思います。もちろん、周りのことばかり気にしては仕事にならないのも事実ですが、時には自分の話した言葉を(録音にとって)聞いてみたり、自分の行動(録画を撮って)を俯瞰的に見てみたりするのも面白いと思います。きっと、自分の欠点(新しい?嫌な?自分を発見)が見えてくるのではないのでしょうか?常に、自分を「鏡」に映しながら相手の立場に立って仕事ができたら素晴らしい職場になる気がします。

「鏡」と聞くとグリム童話白雪姫の魔女のセリフを思い出します。

『鏡よ鏡、世界で一番心の美しい人は誰?』 『はい、あなた様です』

と言われたいですよね!

